

京都ものがたり

vol.6

平成16年3月発行

夢ふくらむ図書館に



目次

インタビュー	2
書店と図書館 ー共に育む地域の読書文化ー	
図書館小特集	3
特集	4~5
直木の“大衆”，“純”的芥川	
京都市図書館紹介	6~7
下京図書館，吉祥院図書館	
図書館コラム	6
空想図書館	
お知らせ	7
蔵書点検が終了	
京都市出身 綿矢りささん 芥川賞受賞	
図書館利用Q & Aを配布	
利用者の声	8
編集後記	8
「夜の図書館」において	

書店と図書館 共に育む地域の読書文化

京都府書店商業組合理事長 中村 晃造氏

■京都府書店商業組合とは

この数年、出版業界も他の業界と同じく厳しい状況にあり、「ミリオンセラー本も減っています。それに伴い書店の売り上げも落ち、社会の本屋に対するニーズの変化も重なって、小規模な店舗では経営に一層厳しさが増している現状にあります。

その中で、我々「京都府書店商業組合」は、一ト化やPOPなどのいろいろな勉強会や相互扶助を行うなど、府内28店舗（うち京都市内20店舗）の本屋の経営をサポートする役目を果たしています。

■本選びのお手伝い

あまり知られていないかも知れませんが、書店では本の販売だけではなく、図書館と同じように「読み聞かせ」などのイベントも行っています。本選びのアドバイスも行つたりして、特に若いお母さん方に喜んでいたりしています。組合としてのキャンペーンや全国規模の「書店くじ」など、大きな取組もしています。



自宅書店にて

与権の問題など、作家や出版界と公共図書館との間の様々な議論が話題になっています。書店と図書館とでは、もちろん立場は違いますが、地域のニーズに沿った本を提供していく点では共通の役割を担っています。新刊本やベストセラー本などは書店で簡単に手にすることができるが、専門的な本、個人で購入するには高価な本、本屋の店頭から消えていき、もう手に入らない本などは、ぜひ図書館で保存し提供していただきたいのです。近頃は、本のサイクルがとても早く、名作でもすぐに絶版になります。手に入らなくなってしまうが、いつでものがすっと読めるのが図書館だと思われるのです。

また、本屋では売れないけれども良い本がたくさんあります。それらにも目を向け、ぜひ図書館に置いてもらいたいですね。それに加えて、来館した人が欲しいと思っている情報を的確につかみ取り、その人の期待以上の情報を提供することができれば、図書館への満足度は大きく上がると思います。もちろんこれは、我々書店でも同じことが言えますが、とにかく、図書館は、大人にも子どもにも、気兼ねなく気軽に利用できるといつて欲しいですね。

■子ども読書活動の推進

私は、「京都市子ども読書活動振興(市民会議)」の委員として、2年間議論に係わりましたが、それ以前から「子ども読書活動推進のための懇談会」に参画してきました。図書館や地域の読書活動、文庫活動を行つている方々、学校の先生方など、子どもを取り巻くいろんな立場の人たちと一緒に、子どもたちが本を読むようになるにはどうしたらいいかを真剣に話し合い、年代別ブックリストを作つたり、子ども読書の日には協力して記念事業を実施するなど、とても楽しい会に育つっています。

実をいうと、この懇談会は、私が組合の理事長に就任した当初に話を持かけたのがきっかけとなつて発足したもののです。運営は図書館が中心になつてもらつていますが、書店も同じテーブルに着いて子ども読書活動を論じ実践していくという全国的にも珍しい、先進的な取組が京都市で実現していると思います。これからも、この懇談会をここに、学校・家庭・地域がそれぞれの連携を図りながら取り組んでいくことが大切です。



読書推進への思いを熱く語る
中村理事長

■書店と図書館のあり方

最近、ベストセラー本の複数購入やそれに伴う公共貸を運ぶところと自分が減ってきている中、これが足を運んでわざわざ機会になり、そして読書に親しんでもうつきつかけになればと思う取り組みもあります。

■書店と図書館が連携をより密に

京都市でも、現在計画中の石川中央図書館が一ト図書館機能を持つと聞いていますが、本の電子化の動きの中では、著作権の問題をはじめとして、ハード、ソフトの問題などクリアしなければならないことがあります。しかし、確実に情報提供の方法は変わっていきます。しかし、今後は紙(本)での提供がなくなるものもある

ります。

図書館もこれからは、紙だけでなく電子情報と両方を揃えなくてならない時代になつてきているの

図書館小特集

<http://www.kyotocitylib.jp/>

各図書館が

ホームページ公開

京都市図書館のホームページをご利用いただいている方は多いと思いますが、平成15年12月から、各図書館もそれぞれホームページを作成・公開しています。各図書館の施設の案内や、行事や展示をはじめとした図書館からのお知らせ、新着本や人気本の紹介などが掲載されています。ぜひご覧いただきご活用ください。

各図書館ホームページのURL

中 央	http://www.kyotocitylib.jp/chuo/
伏見中央	http://www.kyotocitylib.jp/hushimi/
醍醐中央	http://www.kyotocitylib.jp/daigchuo/
北	http://www.kyotocitylib.jp/kita/
左 京	http://www.kyotocitylib.jp/sakyo/
岩 倉	http://www.kyotocitylib.jp/iwakura/
東 山	http://www.kyotocitylib.jp/higashi/
山 科	http://www.kyotocitylib.jp/yamasina/
下 京	http://www.kyotocitylib.jp/shimogyo/
南	http://www.kyotocitylib.jp/minami/
吉 祥 院	http://www.kyotocitylib.jp/kisyoin/

久世ふれい センター	http://www.kyotocitylib.jp/hureai/
右 京	http://www.kyotocitylib.jp/ukyo/
西 京	http://www.kyotocitylib.jp/nishikyo/
洛 西	http://www.kyotocitylib.jp/rakusai/
向 島	http://www.kyotocitylib.jp/mukajima/
醍 酔	http://www.kyotocitylib.jp/daigo/
久我のもり	http://www.kyotocitylib.jp/kogamori/
こどもみらい館	http://www.kodomomirai.or.jp/
コミュニティ プラザ深草	http://www.kyotocitylib.jp/fukakusa/

京都市図書館のホームページ(<http://www.kyotocitylib.jp/>)は、京都市図書館全館に共通することを掲載しています。引き続きご利用ください。

こちらの「京都市図書館一覧」のページからも、各図書館ホームページへのリンクがあります。



⑨芥川賞と直木賞は、上半期（12/1～5/31）と下半期（6/1～11/30）に選考される。

上半期は7月中旬選考、8月贈呈式、9月号に掲載。下半期は1月中旬選考、2月贈呈式、3月号に掲載。芥川賞は「文芸春秋」、直木賞は「オール讀物」に掲載される。2003年下半期芥川賞通常65万部発行のところ、その話題性から80万部刷ったがそれも完売し、増刷で異例の118万部発行になった。

⑧芥川賞・直木賞の創設者は同じ人である。

1935年（S10）、「文芸春秋」を主宰していた菊池寛によって始められた。菊池寛は、最近テレビドラマ化された『真珠夫人』の作者である。ちなみに、彼は趣味豊かな人で、少年時代からの釣りや将棋に始まって、囲碁、相撲、ダンス、麻雀、ポーカー、競馬と多彩だった。井伏鱒二が直木賞を受賞した時、対局中の寛から手渡しで記念品をもらったという。

⑩選考のなかった年がある。

1945年～1948年は、戦争のため中止された。

⑪どちらの賞にも辞退した人がいる。

芥川賞を辞退したのは、第11回の高木卓、直木賞を辞退したのは、第17回の山本周五郎である。山本周五郎は、庶民に仕える文学的態度を生涯通じて貫いていた。

⑫夫婦で直木賞を受賞した例がある。

小池真理子（1995年度下半期『恋』）と、藤田宣永（2001年度上半期『愛の領分』）。

⑬元東京都知事の青島幸男も受賞者であった。

第85回（1981年度上半期）に『人間万事塞翁が丙午』で直木賞を受賞している。ちなみに現東京都知事の石原慎太郎も、第35回（1955年度下半期）に『太陽の季節』で芥川賞を受賞している。

①芥川賞は新人しか受賞できない。

芥川賞は、「無名または新進作家の発表した純文学短編作品を対象にした、純文学の新人賞」。直木賞は、「無名・新進・中堅作家の発表した短編および長編の文芸作品を対象にした大衆文学の賞」である。

②直木三十五は、4回筆名を変えている。^{ペンネーム}最初の筆名は「直木三十一」。次いで三十二、三十三、三十四、三十五である。

31歳の時、用いた筆名が「直木三十一」。以後、1歳年をとるごとに、三十二、三十三と改め、三十五で定着させた。「直木」は本名である「植村」の「植」の字を分けて付けた。ちなみに、直木三十五は享年43歳。

③京都府出身の芥川賞、直木賞作家は、計3名である。

第21回（1949年上半期）芥川賞を『確証』で受賞した小谷剛。第98回（1987年下半期）直木賞を『それぞれの終楽章』で受賞した阿部牧郎。第130回（2003年下半期）芥川賞を『蹴りたい背中』で受賞した綿矢りさの3名。

④芥川賞・直木賞を兄弟で受賞という例が2組ある。

今東光（第36回直木賞『お吟さま』）、今日出海（第23回直木賞『天皇の帽子』）の兄弟と、尾辻克彦（第84回芥川賞『父が消えた』）、赤瀬川隼（第113回直木賞『白球残映』）の兄弟である。ちなみに、どちらも弟の方が先に受賞している。

⑤選考会の司会は、雑誌編集者が務める。

芥川賞は『文学界』（文芸春秋社）、直木賞は『オール讀物』（文芸春秋社）の編集長が、それぞれ選考会の司会進行役を務める。

⑥受賞すると、正賞と副賞がもらえる。

両賞とも、正賞は懐中時計（伝統的にオメガ製）、副賞は100万円（2004年現在）である。



⑦圧倒的に多くの芥川賞・直木賞作家を輩出している学校がある。

早稲田大学である。1999年上半期まで、芥川賞作家を22名（全107名中）、直木賞作家を27名（全141名中）輩出している。最新の芥川賞作家、綿矢りさも、現在早稲田大学に在学中である。ちなみに、京都市の学校出身者では、芥川賞は、京都帝国大学1名、京都大学2名、立命館大学1名、第3高等学校1名。直木賞は、京都大学1名、同志社大学2名、立命館大学2名、京都女子専門学校（現・京都女子大学）1名、京都女子高等学校1名となっている。

京都市図書館



千年の大路小路に歴史が息吹く 下京図書館

おこしやす下京図書館

昭和26年4月1日、京都市社会教育会館として歴史と文化香る下京区に開館。京都市の図書館としては最も古い歴史をもっています。昭和56年4月に京都市下京図書館と改称され、平成13年7月18日には新築移転し新しく生まれ変わりました。

好評な夜間開館・大幅な貸出増

下京図書館は、移転を機に、平日は午後7時30分まで夜間開館するようになり、勤めを終えたサラリーマンやOL、夕食までのひとときを過ごす家族連れに好評です。貸出は1日平均1000冊を超えて、移転前に比べると倍増しています。

まねき猫の子ども用利用案内

つい手にとりたくなるような子ども用利用案内は好評です。「まねき猫」のデザインで、しおり形式を採用し、子どもたちを本の世界へ招いています。すべての子どもたちが本と出会い、本が好きになることを願っています。

生涯学習の中核施設

下京図書館は、特別養護老人ホー



下京図書館の外観

京の祭資料一堂に

平成15年7月、祇園祭の山鉾町に近い地域性を生かして図書館の特色を出そうと、「祭」に関する本を集め、『祭』に関する本を集めた祭コーナーを設けました。

京都の祭を中心に、約20冊の書籍を並べています。さらに収集に努め、充実したコーナーにしたいと考えています。

まちの百科事典として市民に親しまれる地域図書館となるよう、なお一層取り組んでいきます。みなさんのご来館をお待ちしています。

下京図書館は、特別養護老人ホー

ムや児童館などを含む複合施設の4階に位置し、幼児から高齢者まで、また障害のある方にも気楽に利用いただける生涯学習時代にふさわしいものとなっています。

外観は勾配屋根を幾重にも重ねたデザインで周辺の町並みにうまく溶け込んでいます。また、図書館への専用エレベーター棟の頂部には、祇園祭の山鉾の意匠を採用し、この建物のシンボルとなっています。

空想図書館

書
5
コ
ラ
ム

もしも図書館が自分の書斎だったたり、と空想すると、世の本好きさんたちは、ちょっとうつとりしてしまうのではないかでしょうか。あの広い本棚に、あの広い書庫に、自分の本がぎっしりと並んでゆくさまを想像してみてください。もう、本を床に積み上げて何本もタワー（骨組み無し）を建設し、雪崩を起こして遭難することも（多分）なくなるのです…。公共の機関といつ料組みを越えて考えてみると、どうなものでしようか。

例えば、自然光の下で風を感じながら読書できる図書館。

例えば、24時間開館している図書館。

空想図書館と銘打ちましたが、実はこれらの例にあげた図書館は、空想の産物ではあります。実在する図書館です。

京都市右京図書館では、中庭で本が読めます。弥生には桜花、臘月には藤花が美しく、冬には常緑の葉に金柑が実ります。山口県の須佐町には本当に24時間オープンの図書館があります。ただし夜間は無人にならないのですが。

アメリカの多くの図書館には、ネズミ対策の名残でしょうか、伝統的に猫がいて、[Read · More · Books] などとかけられていました。未来にはどんな図書館も存在します。金網越しに本を受け取つたり、「ピ一機がなくてすべて筆写したり、そんな時代には今日の図書館はまさに夢物語だったのですから。美しいコーヒードシチューと「ツペパンを読書しながらただける「冬眠図書館」(by クラフト・エヴァンゲリ商会)「じつは、わたくしがうつむきのやう」)も、実現は近いかもしません。



吉祥院図書館

くつろじだ雰囲気のある図書館

吉祥院の由来

9世紀のなかごろ、この地に菅原是善（菅原道真の父）により仏寺としての吉祥院が創建されました。

延喜3年（903年）に菅原道真が没し、死後に怨靈としてまつられたことから、天神信仰の高まりのなかで、吉祥院でも道真の聖廟がつくれました。この聖廟が吉祥院天満宮へと発展し、天満宮を中心として吉祥院村へと広がったといわれています。

吉祥院図書館は

平成4年4月に京都市で13番目、南区内では

南図書館につ

いで2館目の
地域図書館と
して開館しま

した。

建物は京都
市立塔南高等
学校東館との

複合施設で、
3階建の1階

部分が塔南高
校で、2・3階
部分が塔南高
校

思います。

図書館行事

当館では、毎月第4土曜日に紙芝居や絵本の読み聞かせ等を行う「お楽しみ会」の開催や、

子どもたちが描いてくれたぬり絵を児童コーナーの壁面に展示するなど、親子連れでも気軽に来館していただけるよう工夫した行事を行っています。

また、テーマ図書コーナーを設置し、毎月のテーマに沿った図書の展示もしています。

今後も、地域の方々が気軽に利用していただきたいと思います。

吉祥院図書館の外観



等学校の施設となっています。館内には「読書室」が設けられています。ほか、屋外でも読書ができる緑豊かな「テラス」もあり、くつろいだ雰囲気のある図書館です。

図書館利用Q&Aを配布

「図書館を気持ちよくご利用いただきたい」。そんな思いから、図書館職員がプロジェクトチームをつくり、テーマを決めて取り組んでいます。

今回、取組のひとつとして、図書館を利用されるみなさんから日頃よくいただく質問と回答をまとめた「よくある質問Q&A」を作成しました。

これまでQ&Aを設置していなかった図書館では、今回プロジェクトチームが作成したQ&Aをカウンター等で配布していますので、ぜひご活用ください。また、ご意見などお気づきの点があれば、お知らせください。

蔵書点検が終了

2月から3月にかけて、京都市図書館全館を数館ずつ順に臨時休館しながら行った蔵書点検が、3月19日に全館終了しました。期間中は、利用者のみなさんにご不便をおかけしましたが、今後さらにサービスの向上に努めています。

なお、蔵書点検は、毎年行う予定です。

利用者の声

声

山科区 中島 典子さん 学生

地方から京都へと移り住んだ私は、市の図書館の多さに驚きました。多くの図書館が気軽にに行ける距離にあり、ネットワークも優れているので大変ありがたいです。私は調べ物でよく図書館を利用していますが、家のパソコンで検索をしてから、目的の本がある図書館へと向かったり、家に近い図書館に本を取り寄せたりと、とても便利に活用しております。図書館は答えを見つけることができ、新たな興味へと広げられる場です。これからももっと利用していきたいと思います。

北区 野内 美幸さん 学生

幼い頃から図書館は身近な存在でした。学校に行けば図書室があり、休みの日には母が市の図書館に連れて行つてくれました。京都の大学に通うようになり一人暮らしを始めたからも、ふらっと立ち寄ることのできる場所になつてあります。学校教育や生涯学習における図書館の役割が重要だとか言われています。しかし、そんな小難しいことではなく、一人一人が自由に過ごせる場として、通りがけにちょっと立ち寄れる図書館も提供していくって欲しいと思います。

東山区 愛友保育園

私達の園では、年長児が月一回「絵本の読み聞かせ」に参加しています。小さい時から、本に慣れ親しんで欲しいと、園で毎日保育士が絵本を読んでいますが、図書館へ出掛けた事で、より多くの本に触れ、もっと本が好きになつて欲しい、本を通して想像力豊かな子供に育つて欲しいと願っています。「今日は、どんな絵本かなあ」と子供達も毎回楽しみにしています。これからも、楽しい絵本を子供達にたくさん見せて下さい。

伏見区 神坂 順子さん 主婦

中京区 山口 大貴さん 小学生

醍醐図書館での「おはなし会」や老人施設に訪問して、紙芝居等を読むボランティアに参加しています。これまで通り過ぎていた、児童書や絵本、紙芝居の書棚の前に立つことが多くなりました。児童書には童話から名作と言われる文学作品や古典まで、振り仮名や解説付で、子どもの頃には遠く感じていた数々の本が身近になりました。また、大活字本もとても読みやすくありがたく思っています。すばらしい本と職員さん達の笑顔に出会えて、生活の喜びがまたひとつ増えました。

ぼくがはじめて図書館へつれていってもらったのは、ようち園に入園する少し前、こどもみらい館ができる時でした。図書館には、ぼくが今までによんだことのない本がズラリとならんでいてびっくりしました。ぼくとお母さんと妹で15さつもかしてもらいました。いちどに15さつもよめてしまつて、とてもうれしかったです。ぼくは本をよむのが大きすぎます。図書館のお姉さんたちも大きすぎます。これからもいろんな本をかしてもらいにいきたいです。

後記 集 編

「夜の図書館」において

「夜の図書館」という響きから、何を連想しますか？

個人的には、恐怖のエッセンスです。ほんのひとたまし、そこはかとなく香る頼りないものですが、でも、怖い。夜の図書館で、例えば怪談の朗読の会が開かれたなら、これはかなり怖い（でもぜひ聞きた）。レイ・ブラッドベリ原作の『何かが道をやつてくる』というファンタジー映画の中で、夜の図書館に魅力的な魔物が現れ本を燃やす、という場面があります。人の観察の象徴である本のページが一枚一枚、片隅に闇がわだかまる夜の図書館で燃え尽きてゆく、というイメージは、書痴にはたまらなく恐怖です。

実際の「夜の図書館」は静かです。昼間の喧騒とは違う顔を持つた、ちょっと非日常的な空間になつています。静かな夜の図書館で、静かな書架の間で、静かな本に囲まれていると、その本を書いた人々の思いがより強く感じられるように思います。

ここ数年、京都市の図書館は次々に夜間開館を始めています。夜のお散歩のついでに、夜の顔をした夜の図書館に、ぜひ一度おでかけください。

京図ものがたり vol.6

平成16年3月発行

編集・発行 (財) 京都市生涯学習振興財団・京都市中央図書館
〒604-8401 京都市中京区聚楽廻松下町9-2
TEL 075-802-3133
<http://www.kyotocitylib.jp/>

100 本誌は資源の有効活用のため再生紙を使用しています